

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

自分自身の生活の変化に加え、乳癌で入院した母を看病しなければならなくなり、「私」(二十代の女性)は疲れはてて体調をくずしていた。その日の看病を終え、自宅に帰るときのことである。

もとよりバスを待つ気はなかった。一時間に数えるほどしか本数がないのだ。私は真つすぐにタクシー乗り場へ向かった。

実際にシートに座るそのときまでは、三ツ境駅まで乗っていくつもりだった。歩ける距離ではないがとにかく最寄りの駅ではある三ツ境までなら、タクシーに乗っても「メーターか二メーターだ」。

だがなぜか、シートに身を委ねたとたん私の口は勝手に言っていた。

「すみません、東京の世田谷までお願いします」

① 言いながらも、ああ何言ってるんだろなあ、と思っていた。途中でまたお腹痛くなってきたらどうしようかなあ、とも考えた。けれど、なんだかもいろいろなことがどうでもよかった。

そんな状態だったから、そのタクシーが都市交通だったか金港タクシーだったか憶えてはいない。それどころか、個人かそうでなかったかも憶えていない。憶えているのは左斜め後ろから見える運転手さんの顔と、年齢のわりががっしりした左側の肩の印象だけだ。

病院の玄関前に列を作るタクシーは見舞い客をあてこんでいて、見舞い客のほとんどの行き先は三ツ境駅であつたはずだ。そんな時刻にそんな長距離を乗る客はめずらしかつたのだろう、五十代半ばとおぼしき運転手さんは走りはじめてしばらくすると私に話しかけてきた。

② どうということのない世間話をして、ふと会話が途切れたときに、運転手さんは私の姿を確認するようにバックミラーの中をちらりと覗きこみながら、何の屈託もなく訊いてきた。

「お客さん、お見舞いの帰り？」

そのころの私は、ひどく構わない服装をしていた。怒濤の毎日の中で、服装だとか身だしなみだとかに構ってられる余裕はなかった。引越しが完了したことだからさすがにもうエプロンはつけていなかったが、まあ友人や同僚を見舞う格好には見えなかったと思う。

「ええ、お見舞いっていうか、母が入院してるんですよ」

私がそんなふうに答えると、運転手さんは言った。

「ああ、それじゃ大変だあ。お母さん、何で入院してるの？」

ほんの何十分か同じ車に乗り合わせるだけの相手に対して正直に答えなければならぬ質問ではなかった。だが私は、特に何か考えたわけでもなく、ただ名前とか年齢とかを訊ねられているかのような澁みない調子で、母の病名をすりと口にしていた。

注1 三ツ境、横浜市の地名。

注2 一メーター、タクシーの料金計が最初に示す金額。

注3 個人、個人タクシー。

注4 怒濤の毎日、「怒濤」は激しく荒れ狂う大波。ここではトラブル続きの毎日をたとえてこう言っている。

なぜそんな気になったのかは判らない。③ きつと、いろんなことがどうでもよくなっていたせいだと思ふ。

運転手さんはちよつとのあいだ黙った。だが私はそのこともさして気に留めず、もう切ったから大丈夫なのだということや、今は抗癌剤の副作用のせいで入院しているだけなのだということも黙って喋った。

④ 私の話に相槌を打ってくれはしたが、そのあとも運転手さんはずっと黙っていた。どうとも反応できかないような話題であつたのだ、と解釈した私は、かえって悪いことをしたなあ、というような気持ちになり、だが何せ疲れているので特に気にすることもせずただぼんやりと車窓の外を流れていく風景を眺めていた。そんなことよりも、お腹の具合がなんとか大丈夫そうであることのほうが私には重要だった。

運転手さんはかなり長いこと黙っていた。だから次に彼が口を開いたとき、そのことばが何を意味しているのかは咄嗟には判らなかつた。

「おじさんも切ってるんだ」

彼はそう言い、私は思わず訊き返した。

「え？」

「おじさんのはね、腸だったの。直腸癌」

「あ……、そうなんですか」

「うん。再発したらあきらめてくれ、てなこと言われてねえ、いつときずいぶん心配だったけど、まあもう五年経つから大丈夫だと思ふわ」

まるで他人事のような口調で、運転手さんは言った。乳癌についての知識もないが直腸癌についての知識はもつとない私は、しかし運転手さんのあつけらんとした言い方に妙に納得したような気分になつて、間の抜けた調子で意味もなく受け答える。

「五年……、ねえ、そうですよねえ、五年経てばねえ」

「うん。でもやっぱり長かつたよねえ、**ア**が**イ**じゃないような時期もあつたし。ただね

え、仕事続けられたのはありがたかつたよねえ」

「ああ……、でも大変ですよねえ」

亀みたにうずくまつて吐き気と闘っている母の姿が、ちらりと脳裏をよぎっていた。母には無理だ、となんとなく思い、そう思うと仕事ができるのは「ありがたい」と言つた運転手さんのことばが身に沁みて理解できるような気がした。

「うん、大変だよお」

⑤ 運転手さんが相変わらずのてらいのない口調で話を続ける。

「おじさん、手術してさ、おしっこ出なくなつちやつたんだ」

「えっ？」

「おしっこを出したり止めたりする筋肉もね、切つたとき、癌と一緒に取られちやつたんだ」

「え、じゃあ……」

「うん、だからねえ、今もお腹とここに袋を貼つつけてね、そこにおしっこ溜めて仕事してんの。自分の意思で出したり我慢したりがもうできないからね」

「……」

「毎日毎日、おしっこ袋お腹に貼っつけてタクシー乗ってるんだよお、おじさん」

返すことばを思いつけなかった。頭の中がジーン、と痺れていた。あつ、と思っ問もなく、足の爪先から背骨を通って鼻の頭までを、熱をもった何か物が凄く速さで駆けのぼってきて、眉間に皺を寄せ歯を食いしばって堪えよう堪えようとはしたのだが、最初の一滴がこぼれてしまうとあとは止めようがなくなつた。

それでも運転手さんに気付かれてはならないと下を向いて激しい波が去ってくれるのを懸命に待ったが、波は去ってくれるどころか激しさを増す一方で、しまいには私は肩を震わせ大声をあげて泣いていた。

運転手さんは突然の私の反応に驚いたのかふたたび黙った。ああ悪いなあ、恥ずかしいなあ、カッコ悪いなあ、と、いろいろな思いが去来するのだが涙は一向に止められず、もともといるんなことがもうどうでもよいような気持ちでいたこともあって、私はしばらく涙に身を委ねてしまうことにした。そうしてみると、肩の力がフワッと抜けて意外なほど楽になつた。

どれほどの後に、私はやつとのことと声を出した。声はまだ涙にくぐもっていたが、思っていたよりもずっと元気そうな声を出せた。

「すみません」

語尾に、照れかくしみたいな笑い声が混ざつた。それを聞いて少し安心したのか、運転手さんはバックミラーの中の私にもう一度目をやってから言った。

⑧「いいよいいよ」

長いことそんなに激しくは泣かず泣かずにいられた自分が、なぜその日のタクシーの中であんな大声を出して泣いてしまったのかよく判らない。きつと、それまではあんまりにも疲れていて、あんまりにもやるが多すぎて、世の中に泣くという行為があることを忘れていたのかも知れない。

そのあと運転手さんとどんな話をしたのだったかはもう忘れてしまったが、運転手さんが何回か繰り返し私に向かつて言ってくれたことばだけは憶えている。

「お客さん、ダイジョーブだよ、ダイジョーブ」

⑨ 運転手さんはそう言った。

それは、誰から言われるよりも信憑性のある「ダイジョーブ」だった。

(鷺沢 萌『私の話』〈河出書房新社〉による)

問一 —— 線部①「ああ何言ってるんだろなあ、と思っていた」とありますが、このときの「私」の状態を説明したものとしてもっとも適切なものを次の1〜4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 世田谷に行ってもすることがないのに、思わず言ってしまったことを悔やんでいる。
- 2 料金を払えないかもしれないとすぐに気づき、どうするべきか考えはじめている。
- 3 タクシーで行くには遠すぎる場所を、とっさに言ってしまった自分にあきれている。
- 4 まだ病院にいるべきなのに、逃げるように病院を去ろうとする自分を責めている。

問二 —— 線部②「何の屈託もなく」とありますが、この言葉の意味としてもっとも適切なものを次の1〜4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 何かにこだわった様子もなく
- 2 まったく表情を変えずに
- 3 何かにおびえることもなく
- 4 本当につまらなそうに

問三 —— 線部③「きつと、いろんなことがどうでもよくなっていったせいだと思っ」とありますが、このような「私」の状態の説明としてもっとも適切なものを次の1〜4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 無気力になり、相手は自分のことを理解してくれないと決めてかかっている。
- 2 言動が雑になって、自分の言葉に相手が傷ついてもかまわなくなっている。
- 3 生きる力を失っているの、話をするこさえおっくうになっている。
- 4 正常な判断ができなくなつて、言わないでいい言葉を口にしてている。

問四 —— 線部④「運転手さんはずっと黙っていた」とありますが、その理由としてもっとも適切なものを次の1〜4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 なかなかうちとけない「私」の心を開かせて、真実を聞き出すための方法を考えていたから。
- 2 自分の病気のことを話題にするにあたり、それをどう切り出したらよいか迷っていたから。
- 3 自分のことばかり話すめんどろな客だと気づき、話しかけたことを後悔していたから。
- 4 「私」のかわいそうな境遇を聞いて衝撃を受け、言葉も出ないほど同情していたから。

問五 —— 線部⑤「ア」が「イ」じゃないは「心配でたまらない」という意味ですが、アとイには同じ漢字一字が入ります。その漢字を書きなさい。

問六 —— 線部⑥「てらいのない口調で」とありますが、このときの運転手の様子としてもっとも適切なものを次の1〜4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 遠慮したそぶりを見せない様子。
- 2 言葉に感情のこもっていない様子。
- 3 苦勞を見せつけることのない様子。
- 4 相手のことに関心のなさそうな様子。

問七 — 線部⑦「私は肩を震わせ大声をあげて泣いていた」とありますが、「私」が泣いた理由としてもっとも適切なものを次の1〜4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 目の前の運転手も母と同様に大変な状況と闘っているのを知って、はりつめていた緊張がゆるんだから。
- 2 仕事ができる状態ではないのに、仕事にこだわり続けている運転手のひたむきな生き方に感動したから。
- 3 自分を励ますために運転手は嘘をついていることに気づき、そこまでしてくれる優しさが身にしみたから。
- 4 出会ったばかりの他人にすぎない運転手にまで同情されてしまい、自分がみじめで情けなくなつたから。

問八 — 線部⑧「いいよいいよ」とありますが、運転手のこの言葉の説明としてもっとも適切なものを次の1〜4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 「こういう場所で泣いてしまう客はあまりいないが、あなたは気がすむまで泣くのがよい」という意味がこめられており、「私」が泣くのを無理にやめたのではないかと心配している。
- 2 「こういう場所で泣かれるのは迷惑なことではあるが、あなたがそうなのは理解できる」という意味がこめられており、どんな客にも誠実に応対する運転手の姿勢が表れている。
- 3 「こういうときに泣いてしまうのはよくあることであり、謝る必要はまったくない」という意味がこめられており、「私」の様子を冷静に観察した上での適切な助言になっている。
- 4 「こういうときは気がすむまで泣くのがよいのだから、無理にこらえる必要はまったくない」という意味がこめられており、人生の経験を積んだ運転手の優しさがにじみ出た言葉である。

問九 — 線部⑨「それは、誰から言われるよりも信憑性のある『ダイジョーブ』だった」とありますが、「私」が運転手の言葉を信頼できると思った理由としてもっとも適切なものを次の1〜4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 母の病気について詳しい知識をもっている人の、母の全快を保証する言葉だったから。
- 2 相談を真剣に受けとめてくれた人の、つらい現実を忘れさせてくれる言葉だったから。
- 3 母と同じような病気を乗り越えてきた人の、実際の体験をふまえた上での言葉だったから。
- 4 その場しのぎの慰めなど言いそうもない人の、医学的な裏づけのある言葉だったから。

問十 「私」はどのような人物として描かれていますか。もっとも適切なものを次の1〜4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 自分が相手にどう思われているか気にする細やかさと、相手の欠点は気にしないおらかさを兼ね備えた人物。
- 2 相手の心情を思いやる優しさがある一方で、自分の弱さを容易には他人に見せたくないと思っている芯の強い人物。
- 3 自分が相手に悪く思われまいように気にしすぎる結果、他人とうまく話をする事ができない内向的な人物。
- 4 相手の心情を理解したつもりにはなっているが、結局はそれよりも自分の感情を優先してしまう身勝手な人物。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

野

浅

日本の歴史を読んでいると面白いのは、雄弁なことで評判の高かった人、というのは一人もいない。英雄というのは、保元の乱の源為朝、征韓論の西郷隆盛など議論をすれば負けてしまう方に人気がある。源頼朝の重臣だった梶原景時なんて人気がない。最近になって初めて、勝海舟が雄弁だったとか、福沢諭吉が演説が上手だったとか評価されてきたが、戦前はそういうことがなかった。

▼西郷従道、隆盛の一番末の弟だそうだが、この人は西南の役のとき、兄貴には従わず、明治政府に残った。そして最後は海軍大臣になる。アメリカに行ったとき、海軍大臣が来たということで大歓迎を受けたそうだが、歓迎会の席上でアメリカの代表から「今日は日本からわざわざ海軍大臣が来てくれて大変嬉しい。ぜひ一言、スピーチを」と言われた。西郷従道さんはそのようなときに話すのを聞いた経験もない。脇にいた通訳に「通訳どん、わしは、こげんなこと初めてやるけん、どうしていいかさっぱりわからん。よかこつやつてくれ」と言つて座つてしまったという。

困つたのは通訳である。そこで「今日は私のためにこのような会を開いていただいてありがたい。これは私一人が感謝すべきことではなくて、日本国民がすべて感謝すべきことだと思えます」というようなことを、二分くらいしゃべつて座つた。それを聞いたアメリカ人は何と感想を持ったかというところ、日本語というのには「② 何と神秘的な言葉だと思われた。そうした話が日本に伝わつても、西郷の口べたを悪く言う人はいない。かえつておもしろい奴だ」という評判が立つ。▲

日本ではどうも弁論は好まれなかった。中国では張儀という人がいる。ギリシャではデモステネス。弁論によって一國の運命を救つたという人もいるが、日本ではなかなかそうした人は現れない。漱石の「坊っちゃん」なんかは、弁論のへたなことで代表的な人だろう。職員会議で立ち上がつても、一言もまとまつたことを言えない。そこへいくと教頭だとか校長だとかはいろいろ言える。たぬきや赤シャツはべらべらしゃべるけれど、そういう登場人物は好かれない。

話は簡単方がいい。できればしない方がいい。するならば少し論理的に飛躍していてもかまわない。話はへたの方がいい。こういう傾向が日本人にはあると言つたが、例外はどんなことにもある。

日本人のものの言い方で例外はいさつである。これだけは長い方がいい、行き届かなければいけない、と日本人は思つてきた。みなさんも結婚披露宴の席に行かれたことが何度もあると思う。テーブルの上にはごちそうが並べられていて、来ている人はあの話が終わつたら食べられる、と話が終わるのを心待ちにしているが、これが長い。一〇分、二〇分と続いて、それがやつと済んだとき、その人は何と「以上はなほだ簡単ではありませんが……」。短いといけないと思つているのだ。これが日本人なのである。

日本人の間には、和という精神、これが一番大切になんてはいけないことだという教えがある。ご承知のとおり聖徳太子という人が昔十七条憲法というものを発した。あの第一条には何と書いてあるか。

注1 保元の乱、一一五六年(保元元年)に起こつた争乱。

注2 こげんなこと、このようなこと。

注3 たぬき、「坊っちゃん」の登場人物である校長のあだ名。

注4 赤シャツ、「坊っちゃん」の登場人物である教頭のあだ名。

「和をもつて貴しと為し」。人と仲良くすること。同じ意見を持つこと。これが一番大切だというのが日本人の考えの根底にある。

外国人が日本に来て、日本人の会話を聞くと、一番耳につくのが「ね」という言葉だと言う。「今日はずいぶんたくさんの方が来ましたね」とか「今日は天気がよかったですね」とか、何かと「ね」をつける。あの「ね」は何という意味ですか、と聞かれたことがある。日本人はわかる。「今日はたくさんの方が来たと思つております。あなたも同じでしょう」。つまり、「あなたと同じ気持ちです」ということを私たちは会話をするごとに繰り返している。繰り返して繰り返して言うことで、相手に対する軽い尊敬の気持ちを表している。だからあいさつということが非常に大切なのである。

アメリカ人が日本にやつて来ると、日本人のあいさつはうるさくて仕方ない、と思うようだ。例えば思いがけないところで知っている人とバッタリ会う。「どちらにお出かけですか」と尋ねる。アメリカ人はうるさいと思う。「どこに行こうと俺の勝手だ。俺の秘密を探ろうとしているのだろうか」。日本人は何もそういうつもりではない。「こんなところでお目にかかるとは思いがけないことだ。あなたの身の上何か大変なことがおこつたのではないだろうか。もしそうだったら、一緒に心配してあげましょう」とこういう気持ちで聞かわけである。

「先日は失礼しました」。これもよく私たちが口にするあいさつである。アメリカ人はびつくりする。「確かに先日この男に会つた。しかしそのときにこの男は俺に何にも悪いことはしてない。するとこの男は、俺の知らない間にとんだことをしてくれただけではないか」と心配になるという。日本人の気持ちはそうではない。「先日あなたにお目にかかつた。私としては失礼なことをした覚えはないけど、私は不注意な人間である。もしかしたら失礼なことをしたかもしれない。もしそうだったらおわびする」。こういうことを言っている。そういう言葉でも分かるように、私たちは「④」が非常に好きである。感謝することよりも、④を尊ぶ。

みなさんがバスに乗っている。おばあさんが乗ってきた。誰かが席をゆずる。おばあさんは何と「か。ありがとうございます」とお礼を言う人もいるが、「すみませんねえ」と謝る人の方が多いだろう。おばあさんの気持ちはこうである。「私がもし乗つてこなければ、⑤」

すみません」とこういう論理で、日本人は謝ることを非常に喜ぶ。アメリカで暮らしていた次男の話だが、次男の家にいるお手伝いさんが台所で働いていて、手からコップが滑り落ちて割れてしまった。日本人ならこういうとき「⑥」私がコップを割りました」と言う。でもアメリカの人はけつしてこういうことは言わないそうだ。「⑦」グラスが割れたよ」と言つてきた。「お前が割つたんじゃないか、なぜ自分が割つたと言わないのか」と言つたら、ビククリしていたという。英語で「私がコップを割つた」というとどういふ意味になるか。壁か何かにコップをわざとぶつけて割つた、という意味になってしまうようだ。コップがあやまって手から滑つて割れたときはコップが割れたんであって、私が割つたんじゃない、と頑張るそうだ。理屈を言えば確かにそうである。なぜ日本人は、手から滑り落ちたコップに対して「私が割つた」と言うか。これは日本人の「⑧」感だと思つて。つまり日本人はこう考えるのである。自分の手からコップが滑り落ちて割れたのは、自分が油断していたからだ。自分がしつかりしていたならばこのコップは割れなかつた。自分がうっかりしていたからコップが割れた。このこと「⑧」は自分にある。だから「コップを割りました」という言い方になるのである。こういう考え方は日本人の美德であると私は考える。

(金田一春彦「ホンモノの日本語を話していますか?」による)

問一 線部①「雄弁」の反対の意味の言葉を、五字以内で本文中から探して書きなさい。

問二 西郷従道の逸話の部分(▼から▲までの部分)には、次の一文が抜け落ちています。それはどこに入れるべきですか。直前の五字を抜き出して書きなさい(句読点を含みます)。

立ち上がって見たものの、何を話したらいいか見当もつかない。

問三 ②にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次の1～4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 突然あいさつを頼まれても応じられる、機転をきかせやすい言語だ。
- 2 あんなに短く言っただけであんなに長い内容のことを言っている。
- 3 自分のことを言っているのに、はっきりと断定せずに、ぼかして表現している。
- 4 とても省略が多くて論理的でないが、十分に意味を伝えることはできる。

問四 線部③「だからあいさつということが非常に大切なのである」とありますが、本文からわかるその理由を説明したものと最も適切なものを次の1～4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 相手に熱心に話しかけるのは、相手と親しくなりたいという気持ちを表すことだから。
- 2 相手の立場に立ってわかりやすく話すのは、相手をいたわる気持ちを表すことだから。
- 3 相手に自分の気持ちをいねいに説明するのは、相手を信頼する気持ちを表すことだから。
- 4 相手と同じ気持ちであることを確認するのは、相手を重んじる気持ちを表すことだから。

問五 ④は二箇所ありますが、同じ四字の言葉が入ります。その言葉を本文中から探して書きなさい。

問六 ⑤にあてはまるおばあさんの気持ちを、三十字以上四十字以内で書きなさい(句読点を含みます)。

問七 線部⑥「私がコップを割りました」・⑦「グラスが割れたよ」から読み取れる日本人とアメリカ人の違いについて述べたものとしてもっとも適切なものを次の1～4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 誤ってコップが割れたのはわざと割ったのとは違うと考えるアメリカ人に対し、日本人は自分が油断していたからコップが割れたと考えて謝罪する。
- 2 わざと割ったわけではないと理屈をこねて謝ろうとしないアメリカ人に対し、日本人は素直に自分の非を認め、謝罪をすることが出来る。
- 3 誤りを認めると弁償をしなければならぬアメリカ人に対し、日本人はお互いを思いやれるから、謝罪の言葉があれば許してもらえぬ。
- 4 コップが割れた理由を論理的に説明しようとするアメリカ人に対し、日本人は自分が悪いと思っていなくても謝罪してその場を丸くおさめようとする。

問八 ⑧は二箇所ありますが、漢字二字の同じ言葉が入ります。その言葉を考えて書きなさい。

問九 本文の内容についての説明としてもっとも適切なものを次の1～4の中から選び、その番号で答えなさい。

- 1 本来は短い話を好んだ日本人が、世間体を重んじるあまりにことさらに話を長くする傾向が近年強まっていることを、豊富な例とともに示した上で、かつての日本人の美德を取りもどすことを提案している。
- 2 かつては短い話を好んだ日本人が、諸外国の人々とふれあううちに長い話のよさを理解するようになった過程を、歴史的事実を追いながら述べた上で、新しい日本人の美德が生まれる可能性を論じている。
- 3 日本人が短い話を好む場面と長い話を好む場面の豊富な例をあげ、アメリカ人の例と比較してアメリカ人を批判した上で、どちらの場面にも相手を思いやる日本人の美德が表れているとたたえている。
- 4 短い話を好む日本人の特徴をまず述べ、例外としてあいさつは相手を重んじるから長くなるということを示した上で、相手を重んじている例をいくつかあげながら、日本人のもつ美德を指摘している。

問十 線部「人と仲良くすること。同じ意見を持つこと。これが一番大切だというのが日本人の考えの根底にある」とありますが、こうした日本人の考えについてあなたはどのように思いますか。あなたの考えとそう考える理由を、八十五字以上百字以内で書きなさい(句読点を含みます)。

次の——線部①～⑦のカタカナの部分で漢字で書きなさい。また⑧⑨には慣用句を完成させるための漢字一字を書きなさい。いずれも一画一画をていねいに書くこと。

野

次期会長のコウホになる。

先生のシジに倣いなさい。

浅

③ タイロを断って決戦に備える。

④ キジヨウの空論はつつしもう。

⑤ オンコウな性格で仲間から信頼されている。

驚くべき事実がハクジツのもとにさらされた。

⑦ ウゴのたけのこのように、続々と会社が設立された。

猫の⑧。(非常にせまいことのとえ)

弘法にも⑨の誤り。(名人でも時には失敗することのとえ)

地獄で⑩に会ったよう。(思いがけない助けにあって喜ぶさまのとえ)

(以下余白)